

2024年3月25日

株式会社トクヤマ

AGC 社の太陽光パネルカバーガラス リサイクル実証試験成功に貢献 —フロート板ガラス向けリサイクル原料を北海道・南幌より供給—

株式会社トクヤマ(本部:東京都、社長:横田浩)は、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)との共同開発中の「太陽光パネル低温熱分解リサイクル技術」を用いて分離処理した太陽光パネルのカバーガラス(以下、カバーガラス)を、AGC株式会社(本社:東京都)によるフロート板ガラス向けリサイクル実証試験に供給いたしました。AGC社の本試験は、3月18日にAGC鹿島工場フロート板ガラス製造窯にて実施され、当社が供給したカバーガラスを原料として活用し、日本で初めて、フロート板ガラスへのリサイクルに成功したものです。



廃太陽光パネルカバーガラス リサイクルイメージ図

太陽光パネルは耐用年数が20～30年とされ、2030年代後半より年間数十万トンが廃棄される見込みです。このうちカバーガラスは重量全体の約6割を占めており、産業廃棄物として埋め立て処理されることによる深刻な環境負荷が懸念されています。

当社は、2019年11月に「太陽光モジュールリサイクル実証試験施設」(北海道空知郡南幌町)を設置し、廃太陽光パネルを構成する部材を高品質に処理、抽出する技術確立しました。現在は、廃棄カバーガラスや各種部材のマテリアルリサイクルの可能性を探り、事業化にむけ、ビジネスモデルの構築に取り組んでいます。本試験の成功を受けて、生産量の多いフロート板ガラスが、廃棄カバーガラスの水平リサイクルの受け皿となることが期待されます。

当社グループは、中期経営計画2025に掲げた「事業ポートフォリオ転換」を目標に、環境事業分野にも注力しており、今後も、太陽光パネルのサーキュラーエコノミー実現の一翼を担うべく、尽力してまいります。